

W P F から 8 月の原水爆禁止世界大会へ 2006年世界大会成功めざす活動推進ニュース

発行:原水爆禁止日本協議会

電話03 5842 6031 FAX03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/>

Eメール antiatom55@hotmail.com

【2006年5月25日 NO.4】

「人間の命を守る為に、今こそ地球上から核兵器を廃絶しましょう！」

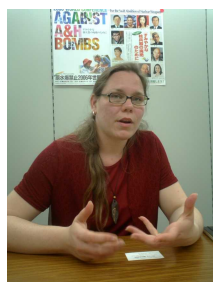
「すみやかな核兵器の廃絶のために」署名に吉永小百合さんからメッセージ

「核兵器を保有する国があるから、対抗して持とうとする国が後を絶たないのです。地球をまもる為に、人間を、人間の命を守る為に、今こそ地球上から核兵器を廃絶しましょう！」(吉永小百合)

「世界大会に参加したことが私の人生を変えた」署名はすべての支部に

『原水協通信』6月号にWILPF事務局長、スージー・スナイダーさんインタビューを掲載。一部を紹介します。

今年も世界大会まで80日。昨年参加された経験もふまえて、世界大会に期待することは。



スージー 昨年は核軍縮の問題では非常にがっかりすることの多い年だったので、人々が昨年ほどの熱意が持てない、結果にがっかりしているという状況の中で開かれることになる今年の世界大会は非常に重要だと思います。もちろん今後の方向性を打ち出すという大会にしなければならないわけですが、同時に今回の大会に参加した人たちが、これまで続けてきた自分たち自身を祝うことが出来るような大会にすべきです。

忍耐強さと努力を続けるということは本当に素晴らしい能力だと思います。これは参加した人を一番励まし、力を与えてくれるものではないでしょうか。私自身はもちろん、軍縮・核廃絶に献身してきた人間ではありますが、もっと強くなれる、そしてもっとこの運動は発展できるということを気づかせてくれました。世界大会に参加したことは私の人生を変えたと思っています。私と同じような経験を世界大会に来るすべての人たちにしてほしい、そういう大会になってくれることを期待しています。

原水協は核廃絶の世論を変化の力に変えることをめざし、「すみやかな核兵器の廃絶のために」署名を打ち出しました。WILPFはいち早く世界中で取り組むと賛同してくれました。その時の考えは、

スージー 私は、今回の署名の内容を見て、1945年頃から私たちの組織がずっと取り組んでいる問題なので、支持するべきだという内容をつけて役員に送り、すぐに返事をする事で私たちの組織としての支援を表明することができるかし、私たちの会に対しても取り組みを呼びかけることができますという風にしたところ、「もちろんです」という返事がすぐに返ってきました。というのは、いくつかの地域組織から草の根のレベルで核兵器廃絶キャンペーンの道具が求められていたので、非常にタイミングが良かったのです。

東大駒場 平和擁護委員会 クラス署名で400筆集める

東京大学駒場キャンパスでは、各クラスから1名「平和擁護委員」を出すことになっており、第1回平和擁護委員会には100人が集まりました。昨年世界大会に参加した人から大会の報告と、なぜ学生自治会が平和活動に取り組むのかなどが話されました。感想文には、世界大会に行きたいという人や、平和擁護委員会の運営委員になってみたいと書いている人もいました。その後、各平和擁護委員に「すみやかな核兵器の廃絶のために」署名を配り、クラスで集めてきてほしいとお願いすると、現在20クラス(1クラス35人)から平均して各20筆の署名が集まっています。個人情報保護法などの影響で警戒心が高まっている中で、核兵器廃絶の署名はみんな書いてくれるので広がる条件があるという確信になっています。

今中政輝(東京都学生自治会連合委員長、平和擁護委員)

『原水協通信』6月号は26日納品、発送となります。200部ほど予備がありますので、宣伝紙(1部50円)としてご活用ください。ご注文は明日の朝10時までにお願ひ致します。